

令和2年度 小野市認知症地域支援推進員活動報告

＜報告者＞小野市地域包括支援センター 今榮 直子

小野市の認知症地域支援推進員について

- 1 認知症地域支援推進員：1名
- 2 小野市の認知症施策

①	認知症への理解を深めるための普及・啓発	・ケアネットガイドブックの活用
②	小野市高齢者見守り・SOSネットワーク事業	・高齢者外出見守り事前登録制度 ・高齢者外出見守り模擬訓練の実施
③	認知症サポーター養成講座の実施	・出前型認知症予防講座の実施 ・認知症キッズサポーター養成講座の実施 ・キャラバンメイト連絡会の開催
④	絆カフェ事業者の活動支援	・絆カフェ連絡会（情報交換）
⑤	介護家族者交流事業	・介護者交流会（ほのぼの交流会 年2回）

『認知症理解を深めるための効果的な普及啓発の実施』

「認知症キッズサポーター養成講座」の
市内全小学校実施について

令和2年度は計346名の認知症キッズサポーターが誕生

(平成27年度の実施開始以降、累計2,507名)



クイズや寸劇を
通して学習

【受講した児童の声】

- 認知症になってもできることがたくさんあることがわかった
- 若い人でも認知症になることがあると知った
- おじいちゃんやおばあちゃんを助きたい
- 声をかける時は、優しく接したい

「お出かけ見守りQRコードシール」を活用した 高齢者外出見守り模擬訓練の実施について

【お出かけ見守りQRコードシール】

小野市地域包括支援センターでは、高齢者外出見守り事前登録を希望された市内在住の65歳以上、又は40～64歳で要介護認定を受けている人に「お出かけ見守りQRコードシール」を無料で10枚お渡ししています。

発見者がスマートフォンで
QRコードを読み取る

市の連絡先が表示される

市や警察へシールに印字された
個人番号を伝えることで、素早
い身元確認・保護へ



令和3年3月末現在 外出見守り事前登録者 146名

令和2年11月21日、小野東小学校区の住民の方を対象に
高齢者外出見守り模擬訓練を実施、58名の方が参加されました。



認知症役に声を
かけ、QRコード
シールを発見

認知症サポ-
ーター養成講座
受講



模擬警察署では小
野署員が参加者か
らの通報対応

認知症役（若年性
役も参加）の名前
や特徴を模擬警察
署に通報



【これまでの取り組みと今後の予定】

- ・平成27年度 河合地区で実施
- ・平成28年度 来住地区で実施
- ・平成29年度 市場地区で実施
- ・平成30年度 大部地区で実施
- ・令和元年度 下東条地区で実施
- ・令和2年度 小野東小学校区実施
- ・令和3年度 小野小学校区で実施予定

【参加者の声】

- ・実践訓練を通して、声かけの勇気が出た
- ・お出かけ見守りQRコードシールの仕組みを知ることができよかった。もっと周知してほしい
- ・地域の見守りの認識が高まった
- ・まずは身近な町内で、普段から気を配りたい

絆カフェ（認知症カフェ）



多くの方がご利用
されています

市内9か所（令和3年3月現在）に広がっています。



ふれあいおうか
おだの里
栄宏会小野病院リアンズカフェ
クラブ・オパール
さわらびの郷 Cafe「結」ゆい
ふたばカフェ
こみなみ
グッドタイムリビング小野
楓



認知症地域支援推進員活動の今後の課題

- ◆認知症ケアネットガイドブックの有効活用
- ◆当事者や家族の声、視点を重視した支援体制
- ◆若年性認知症の方について、特性に配慮した支援の周知や居場所づくり
- ◆チームオレンジ事業を開始するために、認知症サポーターのステップアップ研修を実施する
- ◆認知症に関する出前講座、市民向けセミナー、フォーラムの企画開催など、認知症への正しい理解を深めるための普及・啓発
- ◆初期集中支援チーム員活動との連動による、早期受診及び早期診断後の適切な対応へのスムーズな支援体制づくり

認知症地域支援推進員としての思い

- ◆認知症地域支援推進員だけで事業や支援体制を作ることは困難であるため、地域の資源(ボランティア、住民団体、医療機関、サービス事業者、企業)の発掘と人材育成に取り組む
- ◆認知症の人やその家族の視点を重視した取り組みを進め、認知症の人にやさしい地域づくりをめざしていきたい
- ◆チームオレンジが地域で活動していけるように、事業の立ち上げから支援までの体制を作っていく